

シャク、シャク、シャク……。肌寒い早朝のビニールハウスにチンゲンサイを刈り取るみずみずしい音が響く。「大きな株を切る時は特にやりがいを感じます」と、作業をしていた聴覚障害の50代男性が筆談で答えてくれた。

障害者17人を雇用する就労継続支援A型事業所マヤファーム（岡山県和気町本）の農地。「うちは福祉の補助金のおかげで思い切った初期投資ができたんですよ」と理事長の厚見剛さん（57）が、2棟並んだ大型ハウス（計約10坪）を見上げながら話す。

もともと造園会社に勤めていたが、2006年に脱サラし、農業の世界に飛び込んだ。A型事業所を設立したのは経営が軌道に乗り始めた12年。妻の勤め先の障害者作業所から利用者が手伝いに来てくれたのが縁で、障害

共に拓く

■岡山のノウフク

② A型事業

者のひたむきで正確な働提供しながら、最低賃金どに厚生労働省所管の独きぶりに心を打たれ、自以上を支払うだけの収益立行政法人が支払う報奨金を後押ししたいと乗り上げた。このため、A型事業所を運営して障害者を受け入れ、補助金もつまく活

害者は農業経営を支える頼もしい存在になった。付金で、事業所職員の人件費などとして利用者1人につき1日約6千円が支給される。さらに継続雇用を担保するための雇用保険の助成金（1人につき3年間で最大240万円）や、一定の障害者雇用率を達成した企業な

■三つの支援

A型事業所は、さまざま万円の、一定の障害者雇用率を達成した企業なまな障害に応じた仕事を

補助金活用し経営強化



マヤファームのハウスでチンゲンサイを収穫する利用者。施設整備にはA型事業で利用できる補助金を充てた

ズーム 就労継続支援A型事業所 一般企業への就職が難しい障害者が福祉的な支援を受けながら働く。2006年に施行された障害者自立支援法（現障害者総合支援法）で制度化された。事業所は障害者と雇用契約を結び、原則として最低賃金以上を収益から支払う。事業者は障害者に職業訓練を行ったり、働きやすい環境を整備したりする対価として国などから補助金を受け取れる。雇用契約を結ばないB型もある。

え、トラクターなどの農機具も新たに購入した。障害の程度に見合った作業を調整したりと苦労は多い。ただ、その壁を乗り越えたと従来の個人経営ではなれないほど手間暇をかけた栽培ができるようになった。

収穫したチンゲンサイはほぼ全量を岡山市中央卸売市場（同南区市場）に出荷する。時にはトツプの価格で競り落とされるほど、その品質は高く評価されているという。

■技術を磨く

独自に磨いた栽培技術も高収益を支えている。一度収穫した後、間髪入れずに次の苗を植え、一つのハウスで年9回も収穫する。人手のいる苗の植え付けや害虫駆除、収穫も障害者が戦力となつて効率よくこなす。一人一人の障害者を一人前の農業者に育てるにう強調する。（久万真毅）

ら180人っている。「への提言」したパネルシヨンや商たパーティ午後3時加費は5千含む）。28協議会の事クス（0802950294）

情報ボックス

◆イチゴ狩 来月5月下旬から5月下旬まで、警市上市の農家いわ農園でウスで栽培さほつや草茹など最大6点くる。40分間中学生以上小学生150以上幼児手は前9時了する。問い合わせ（0863715）。